

各 位

会 社 名 株式会社 クロニクル  
 代 表 者 名 代表取締役会長 天 野 裕  
 (JASDAQ・コード番号： 9822)  
 問い合わせ先 常務取締役管理本部長 久保田 峰夫  
 電 話 番 号 0 3 - 5 7 7 1 - 1 2 0 0 (代表)

平成 23 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間（連結）の実績値と業績予想との差異及び通期（連結）の業績予想の修正について

平成 22 年 11 月 15 日公表の業績予想数値に対して修正を行う事といたしましたので下記のとおりお知らせ致します。

記

1. 連結業績予想と実績値との差異

①平成 23 年 9 月期第 2 四半期累計（連結）の業績予想の修正（平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想(A) (平成 22 年 11 月 15 日発表)	百万円 1,700	百万円 20	百万円 20	百万円 20	円 銭 0.04
今回実績値(B)	1,547	△359	△352	△415	△8.73
差異額(B-A)	△153	△379	△372	△435	—
増減率(%)	△9.0	—	—	—	—
前期実績(平成 22 年 3 月 31 日)	1,779	△334	△296	△261	△0.59

(注)当社は、平成 23 年 2 月 28 日に 10 分の 1 の株式併合を行っており、今回実績値の 1 株当たり四半期純利益の算出は併合後の株式数にて算出しております。

②平成 23 年 9 月期 通期（連結）の業績予想の修正（平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (平成 21 年 11 月 13 日発表)	百万円 4,450	百万円 50	百万円 50	百万円 40	円 銭 0.09
今回発表予想(B)	3,000	△600	△600	△650	△13.66
増減額(B-A)	△1,450	△650	△650	△690	—
増減率(%)	△32.6	—	—	—	—
前期実績(平成 22 年 9 月 30 日)	3,509	△648	△690	△893	△2.00

(注)当社は、平成 23 年 2 月 28 日に 10 分の 1 の株式併合を行っており、今回発表予想の 1 株当たり四半期純利益の算出は併合後の株式数にて算出しております。

## 2. 業績予想との差異が生じた理由

セグメント別 第2四半期連結累計期間予想値との差異（平成22年10月1日～平成23年3月31日）

事業種別	当初予想値（百万円）	実績値（百万円）	増減率（%）
宝飾品事業	350	387	10.6
投資事業	15	7	△53.3
WEB情報事業	1,100	925	△15.9
流通サービス関連事業	200	191	△4.5
リサイクル事業	35	35	—
合計	1,700	1,547	△9.0

今回の業績予想の差異に関して大きな変動要素として、WEB情報事業における収益性の低迷及び宝飾品事業における収益性の低下があります。

現在の日本経済における経済環境は、一昨年より続く低迷状況を完全には脱しておらず厳しい状況が続いております。

当社と致しましては、平成22年12月3日に株式会社クリエイト24（旧株式会社クリエイトニジュウイチ）及び株式会社エフデータ・クリエイションを新たに加え、グループ事業全体の拡大を行いました。

また流通サービス関連事業並びにリサイクル事業の新規展開による収益の拡大に努めてまいりました。

しかしながら、平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災の影響により、宝飾品事業の急激な売上低迷やWEB情報事業の通販関連における売上低下や流通ルートが混迷、さらには、流通サービス関連事業の東北地区の顧客の激減、取引先の営業時間の短縮、リサイクル事業の新規展開の一時中止等により、売上高は確保出来るものの収益面におきましては多大な影響を受けざるを得ない結果となりました。

### 「宝飾品事業」

現在、当社グループでは株式会社アメイジングバリューのリセール・オークション事業と株式会社ドゥーズによる正規品販売事業及びジュエリー販売事業への住み分けを明確にし、国内外へ積極的展開を行っております。

宝飾品事業に関しましては、当初国内小売が回復基調に推移し始めていた状況でありました。

当社としては、前年の実績を参考にしつつ、販売実績の進捗状況を加味しながら業績予想の策定にあたっており、利益率は低下するものの前連結会計年度の状況と比較し回復基調にあると予想し、平成23年9月期第2四半期連結累計期間350百万円、通期925百万円と予想しておりました。

しかしながら震災影響による顧客の急激な購買手控え等により、当該事業に関して業績に大きな影響を与える形となりました。

その結果、売上高は10.6%上乘せされ387百万円となったものの、震災以後の急激な売上高の減少、収益性の低下並びにリセール・オークション事業における商品評価損の売上原価組み入れ等により当初の予定より営業利益は伸びませんでした。

今後につきましても非常に厳しい状況に有ると予想されます。

### 「投資事業」

投資事業につきましては、前連結会計年度と同様に推移すると判断し、第2四半期連結累計期間15百万円、通期80百万円と予想しておりました。投資事業は、当初予想と比較して大きな変動はありませんでした。

### 「WEB情報事業」

WEB情報事業につきましては、基本的に前年と同様に推移しつつも、通販事業の拡大を予想しており、第2四半期連結累計期間1,100百万円、通期2,550百万円と予想致しました。

しかしながら、震災影響によりWEB通販における商品確保の問題や流配送通経路混迷及び消費者の購買自粛等の影響をうけたため当初予想を15.9%下回り925百万円となりました。

WEB事業における利益は、当社グループの柱でありグループ全体に対する利益額への影響は大きく、今回の下方修正に大きな影響を与えるものであります。

#### 「流通サービス関連事業」

流通サービス関連事業におきましては、第2四半期連結累計期間 200 百万円、通期 710 百万円と予想しておりました。第2四半期連結累計期間におきましては大きな変動は有りませんでした。今後震災影響による取引先の遊技場の閉鎖や夏場における計画停電再開懸念等による営業時間短縮等による影響を受ける事が予想されます。

また、一部東北地区における販売予測が大きく変動し、今後の影響も懸念されます。

#### 「リサイクル事業」

リサイクル事業の中心である金等の買い取りビジネスを中心に行う「黄金市場」におきましては、概ね予想に近い状況となりましたが、今後フランチャイズ展開の計画しておりました中で東北エリアにおきましては、フランチャイズ出店による業績拡大を一旦白紙にならざる状況となりました。

今後の収益計画の見直しを余儀なくされた状況となります。

以上のように第2四半期連結累計期間の売上高の減少理由に加え利益率の低下及び売上原価の増加が各利益へ影響したことが修正理由であります。

### 3. 通期の業績予想の修正理由

通期におきましても、第2四半期連結累計期間までと同様に厳しい状況となると考えられます。

#### セグメント別 通期（連結）売上予想値（平成21年10月1日～平成22年9月30日）

事業種別	当初予想値（百万円）	今回予想値（百万円）	増減率（%）
宝飾品事業	925	610	△34.1%
投資事業	80	50	△37.5%
WEB情報事業	2,550	1,900	△25.5%
流通サービス関連事業	710	400	△43.7%
リサイクル事業	185	40	△78.4%
合計	4,450	3,000	△34.1%

#### 「宝飾品事業」

宝飾品事業におきましては、第2四半期連結累計期間までと同様に厳しい状況となると考えられ、当面は大きく業績の回復を行うことは難しいと考えております。

同事業におきましては、今後の取扱商品の見直し及び販売チャンネルの変更等を行うことにより売上高は当初の予想数値 925 百万円を 610 百万円に下方修正が必要と判断致しました。

#### 「投資事業」

投資事業につきましては、当初の予想数値である 80 百万円を 50 百万円に下方修正が必要と判断致しました。

#### 「WEB情報事業」

WEB情報事業におきましては、「WEB情報ビジネス」と「WEB通販」による物販ビジネスの2本柱による構成となるものの、「WEB情報ビジネス」の売上高減少が要因で、売上高におきましては当初の予想値 2,550 百万円を 1,900 百万円に下方修正することが必要と判断致しました。

#### 「流通サービス関連事業」

流通サービス関連事業におきましては、東日本全体の夏場の電力供給不足が予想され、新たな計画停電等があった場合、取引先となる遊技場の営業時間短縮や休業による売上減少が懸念されるため厳しい状況が続くものと予想され、売上高におきましては当初の予想値 710 百万円を 400 百万円に下方修正することが必要と判断致しました。

「リサイクル事業」

リサイクル事業におきましては、フランチャイズ計画の見直しが必要となるため当初予想を下回る事が予想されます。

売上高におきましては当初の予想値 185 百万円を 40 百万円に下方修正することが必要と判断致しました。

以上が通期連結における売上高の修正理由であります。第 2 四半期連結累計期間における各事業の利益率の低下が下期も続くと予想され各利益への影響も加味したことが業績予想の修正に至った大きな理由であります。

なお、本資料に記載の予想数値は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上